

「諸君、明日はもっと良いものをつくろう」…ガウディが残した最後の言葉。この「希望」こそが日本の復興の道のりを照らす幸せの明かり

心を一つにして つくろう未来

4月に帰郷した外尾悦郎さんに、サグラダ・ファミリアのこと、ふるさと福岡への思い、そして東日本大震災後の私たちの在り方について聞きました。



「サグラダ・ファミリアがこれほどまでに多くの訪問者があるのは、この教会が生きているからです。命を持っているから。ガウディが死んだ後も永遠に生き続けています。僕はこれをつくっているのではなく、育てている。ガウディが生んだ命をわれわれは育てているのです」

自分とは何か。それを求めてヨーロッパに渡り、石を彫りながら人間が本当に大切なことを学んだという外尾さん。ガウディが見ている方向を見、立っている場所に立つことで「ガウディがスーツと自分の中に入り」、設計図にないアイデア

勇気、思想、情報が扉を開く！

「サグラダ・ファミリアがこれほどまでに多くの訪問者があるのは、この教会が生きているからです。命を持っているから。ガウディが死んだ後も永遠に生き続けています。僕はこれをつくっているのではなく、育てている。ガウディが生んだ命をわれわれは育てているのです」

アもわいてくるようになっていいます。 そんな外尾さんが憂いているのは、ふるさと福岡のこと。

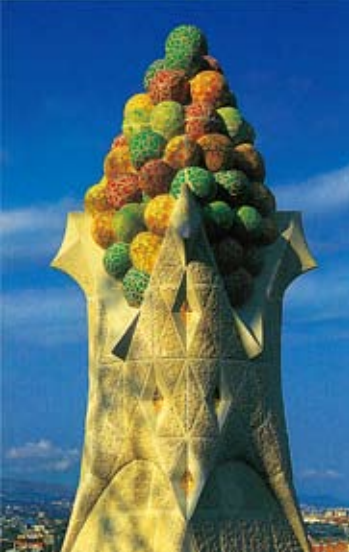
「これだけのいいものを持つているのに、前に進めない。それは、持つべきものを持っていないからです。勇気、思想、そして情熱。情熱がある人が新しい扉を開く。それには観察が必要で、現実をしっかりと見るといこと、世界は目の前にあるということ。そこから偉大なものに気がつき、その中の一部になるようにしたときにはじめて人間は偉大なものになれる」

外尾さんは、著書「ガウ

みなが被災者、同じ心で…

外尾さんは震災後の日本にも疑問を抱いています。「65年前にあれだけの状態から今の日本をつくりあげたんだから、必ず復興するとだれもが楽観的にみている。みようとしている。それが一番危ない。サグラダ・ファミリアでは129年間一度も死亡事故がありません。なぜなら、みな緊張感の中で仕事をしているから。今の日本のように緊張感もなく、何とかなるさ、だれかが何とかしてくれるさと思っている状態が一番危ない」

では、どうあるべきか。「福岡という遠い地であっても、みな被災者だという感覚を持たなければいけない。同じ心なんだと。世界中の人たちがそう思い、何かをしようと思つたとき、世界は一瞬にしてかわります」



未来への希望が幸せをつくる！

「今がそのときです。われわれは被災者であり、加害者である。自然というものは、許してくれません。その破壊された時間と空間の中で、われわれはどのように生きていくのか。その生き様が問われています。あれだけの被災者を見ながら、これからの日本人がどうやって生きていくのか。覚悟をかえなくてはなりません」

そこで必要なのが…

「観察であり、情報です。本の中の情報というものは、自分の中から感情として、心として出てくるもの。その心が変わらなければ、今日という現実をみて、自分はどう新しい扉を開くのか。幸いにして、われわれは先のことはいっさい分かりません。だからこそ希望というものはある。被災者にも、希望だけは残したい。それがソトオ・プロジェクトの基本です」

「ソトオ・プロジェクト100人委員会」発足

「外尾さんのような方が博多の人だと、博多の人にもっと知らせたかった」。この起こりは、福岡での文化活動向上に努める福岡・文化振興会が企画した講演会でした。

「今こそ、ガウディの思想を博多のまちづくりに生かしたい。そのためには、ガウディの遺志を継ぐ外尾さんと呼ぶしかないと思ったんです。まず、11月に開催する講演会を盛り上げるために100人委員会という外尾さんの応援団を組織しました。成功したあかつきには1000人の応援団にして、外尾さんの知恵を福岡のために役立てたい」

同会事務局長・阿部昌弘さんは話します。そうしたふるさとの思いに外尾さんが応えるかたちでスタートしたのが、ソトオ・プロジェクト。「既存の科学の想定や制度の限界、思考の習慣をはるかに超えた震災後の今こそ、社会や経済の枠組みそのものを組み立て直す

べきとき。その地獄的、世界的な課題に福岡の地から挑戦しよう！」 そんな熱い思いがこもった未来創造プロジェクトです。

既に、ガウディ・ワークショップ、ソーシャルビジネス、東北復興支援(気仙沼大使)、スペイン音楽の紹介、日欧をつなぐ芸術の町づくり等、福岡が関係しながら多様な活動がスタート。外尾さんが客員教授を務める九州大学では、統合新領域学府教授・坂口光一さんが呼びかけ人となり、「ガウディ未来建求2022」もスタートします。外尾さんがガウディから学んだ知恵を生かして、まだ見えない未来を若者とともに、情熱と勇気をもって掘り出していこう、そんな行動する知のネットワークです。

「既存のシステムや慣習をこえ、人間が生きていく意味や幸せを探索し、都市の理想像、未来像を彫り込んでいく。そうしたワクワクする動きを福岡の地から創発し発信していきたいと考えます。めざすは、

世界の人々が『いいね!』と賞賛してくれるような、10年後の理想・福岡の構築です」(坂口教授)

九州大学では、さらに「ガウディ未来学研究所」の開設も検討中。「みんなで日本の未来をつくりましょう。心はひとつ!」 外尾さんが気仙沼市に贈った寄せ書きにあるように、未来と希望に向かって、福岡からの挑戦が始まっています。

◆ソトオ・プロジェクト100人委員会発足パーティー
日時：5月27日(金) 19:00～
会場：タカラホテル福岡/会費：1万円

◆外尾悦郎 講演会 日時：11月15日(火) 19:00～
会場：アクロス福岡シンフォニーホール/入場料：3000円
いずれも問い合わせは福岡・文化振興会へ
☎092-738-0088 (月～金 10:00 から 17:00)

5分間救急箱

「5分間救急箱」への質問を募集。下記へ郵送またはファクス、メールで応募を ※回答は紙面のみ

〒810-8585
西日本リビング新聞社
「5分間救急箱」係
FAX092・715・2955
fukutoukou@lisa.co.jp

メールはこちらからでもOK!

あなたや家族の健康についての疑問、
誰にも聞けなかった体の悩みもスッキリ解決させましょう!

A 胃腸を丈夫にするには、まず今の生活習慣を見直すことが大切です

下痢の種類は、大きく分けて2つ。①「疾患によるもの」(感染や中毒、炎症などが原因)、②「機能的なもの」(生活習慣やストレスなどが原因)です。お悩みを聞く限り、ご主人がどちらのタイプの下痢なのか判断するのは診察なしには難しいですが、疾患によるものではないならば自己管理による改善が可能なこともあります。

また、「過敏性腸炎」いわゆる、「過敏性腸症候群」(IBS)を心配されているようですが、これは、ストレスの多い現代社会で増えている病気のひとつ。日本人の5人に1人が当てはまるとされています。通勤途中や会議前におなか痛くなるなど腹部症状があり、排便によって症状が軽減されるようであれば、「IBS」の疑いあり。早めに医療機関を受診しましょう。「IBS」に運動も腸の働きを整える効果が期待できます。(中川元典先生/さわらぐち胃腸肛門クリニック院長)

Q 夫が頻繁におなかを壊します。毎日家族と同じものを食べているし、風邪をひいてるわけでもありません。どんな原因が考えられますか。最近よく聞く「過敏性腸炎」などは、と疑っています。また、胃腸を丈夫にする方法があれば教えてください。(おかゆ)

夫が頻繁におなかを壊します。毎日家族と同じものを食べているし、風邪をひいてるわけでもありません。どんな原因が考えられますか。最近よく聞く「過敏性腸炎」などは、と疑っています。また、胃腸を丈夫にする方法があれば教えてください。(おかゆ)

DAILY COOKING 読者レシピ編

今日のメニューは何にする? このコーナーでは、「デコ弁」「広沢レシピ」「読者のクイックレシピ」「作り置き」を週替わりで紹介しします。

ちくわの炒り煮

♥材料 (ちくわ4本分)
ちくわ4本、しょうゆ大さじ3/1、砂糖大さじ3/2、みりん大さじ1、油・ごま油・ごま適量

♥作り方
1、ちくわを斜め切りにする
2、鍋を熱して油を引き、ちくわをサッと炒める
3、弱火にした後、しょうゆ・砂糖・みりんを入れ、焦がさないようからめる
4、最後にごま油を少量たらし、すぐに火を止める
5、ごまをかけてできあがり

♥ココがポイント!
約1分できあがる、超簡単メニュー! 冷めてもおいしく、お弁当のおかずにもぴったり。

♥投稿レシピ募集中
採用された人には図書カードプレゼント!
レシピをメールで募集中!



レシピ/PNもっちゃん